

令和6年度後期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1101	基盤教育群	スタートアップセミナーⅡ	レポートやディスカッションに関する授業は前期に行ってほしいという要望がありましたので、できる限り早く実施できるよう事業プログラムを改善します。
1102	基盤教育群	全学自由ゼミ	この授業は、学生の積極的な参加によって成り立っています。引き続き、各教員の掲げるテーマに興味関心のある学生の参加をお待ちしております。
1103	基盤教育群	情報化社会と技術	<p>「楽しかった」「よくわかった」などのポジティブなコメントも多かったが、ネガティブなコメントも多かった。後期に入って難しい話も増えたため、好みが別れたものと思われる。ネガティブなコメントについて次に記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> - スライドの文字が少し多い。 <p>改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 授業の要点がわかりづらいこと <p>改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教科書は授業始めからシラバスに参考書程度に利用するような言葉を付け加えて欲しいです。 <p>授業の初めに言及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 内容が難しいと言えば理解する必要は無いのですと言ったりなんのためにやっているのかよく分からなかった。 <p>教員としては、本講義で扱う話題については学生諸君の興味関心知識技術が多様であることに対応したかった。そのために、多くの話題を硬軟取り混ぜて紹介した。その中にはかなり高度な技術や、社会の本質的な問題も含まれていた。それらは簡単に答えが求まる性質のものではない。しかしおそらく、受験勉強気分が抜けない学生、これから国家資格試験が控える学生は、安直に答えのみを知りたがっていたのだろう。だが世の中にはそれとは違う性質の勉強もあるということが、この科目の重要なメタメッセージであった。それが伝わらなかったことを反省し、来年は難しい話をする意図をその都度説明するように改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 授業の着地点が理解できなかった。「授業全体を通して伝えたいこと」よりも、「毎回ごとにどんな目的で、何を学んでほしいのか」教えていただきたい。 <p>それは教員が指示することではなく、学生が自分で見つけるものである。高校生気分から抜け出してほしい。ということを繰り返し伝えるように改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 食産業学群について <p>来年度も、食産業学群の学生に情報関連の知識や技術に興味を持ってもらうために、食産業関連企業のDXやAI活用に関する情報も意識的に取り入れる予定。</p> <p>特に各企業の新卒採用ページなどを取り上げ、当該分野でも今後業務のDX化やAI活用が進むことを紹介する。</p>
1104	基盤教育群	基礎統計学Ⅰ	同一学群内のクラス間の指導方針に差異がみられないように予め調整する。また、内容の偏りや講義の進め方について、教員間でより緊密に相談する。特に、理論をより分かりやすく説明し、問題練習などを多用して、受講者の理解度を高めるように工夫したいと思います。
1105	基盤教育群	English Gateway II	担当する教員間のコミュニケーションは良好で頻繁に情報を共有しているため、シラバス通り授業を進めており、評価ポイントや評価方法も同じである。しかし、学生の指摘にあるように、グループワークの頻度等についてクラス間による差がみられた。今後は、非常勤教員とさらに情報を密に交換し、クラス間による差をなくしていきたい。
1106	基盤教育群	English Self-Expression II	<p>学生から寄せられるよくある不満として、担当教員による授業内容や進め方にばらつきがあることが挙げられます。これに対しては、会議やメールでの打ち合わせを通じて、シラバスの内容を全教員に周知徹底するよう努めています。</p> <p>学生の率直な意見を把握するため、オンライン上に匿名のフィードバックフォームを設け、授業に関する意見を収集しました。</p> <p>「English Self-ExpressionⅠ・Ⅱ」では、文法の正確さに過度にとらわれることなく、積極的に発話することを重視しています。そのため、「間違いを恐れず、たくさん話す」という姿勢を学生に浸透させたいと考えています。</p> <p>文法に不安のある学生には、自己学習を促すとともに、必要に応じて教員に個別相談するよう指導しています。本授業は文法習得を主たる目的としたものではなく、授業時間をスピーキング力向上に充てることを基本方針としています。</p>
1107	基盤教育群	University English	<p>学生の反応は概ね良好であり、授業中もスピーキングやライティングに積極的に取り組んでいます。今後は「良いディスカッションの質問とは何か」や「ディスカッションの効果的な進め方」といった点に、もう少し時間を割くことを検討しています。</p> <p>また、一部の学生からは発音などの項目について、もう少し明確な指導を希望する声もありましたので、その点についても改善の余地があると感じています。</p>
1109	基盤教育群	Academic Reading	英語で考え、英語で文献を読む癖をつけることができるように、授業内でもっと工夫をしようと考えている。

令和6年度後期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1110	基盤教育群	中国語Ⅱ	<p>全体として、非常に満足度の高い授業となりましたが、今後さらに良い授業を目指して、以下の点に工夫を加えていきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学生の理解をより深めるため、授業外の学習時間を増やせるような工夫を行っていきます。 * 両クラス間の学生人数に偏りがあるため、そのバランスを調整するための方法を検討していきます。 * 中国語の学習意欲をさらに高めるため、「加点制」などの仕組みを取り入れつつ、さまざまな工夫を継続していきます。 * 使用テキストに加えて、中国語圏の社会や文化に関する学習内容も取り入れ、学生にとってより満足度の高い授業を目指します。 * 授業方法にさらに工夫を凝らし、学生が楽しく中国語力を向上できるような学習環境の整備に努めていきます。 * ペアワークについても、選択肢の幅を広げ、希望者は一人で音読や練習ができるような柔軟な対応を取り入れます。これにより、より安心して授業に参加できる学生が増えると考えています。
1111	基盤教育群	韓国語Ⅱ	<p>韓国語Ⅱの授業の目標は「基礎的な日常会話ができる文法や語彙を習得する」というものであり、そのため、関連する言葉や文法について学んでいる。また、それだけではなく、学んでいる言葉に関連する歴史や生活礼儀など文化の紹介を行っており、より韓国語が理解できるように務めている。それにより、学生たちがより韓国の文化に親しみを感じて、韓国語を勉強するという動機付与になる。また、今回の授業では韓国の文化についてより深い知識を得るために、学生からの質問をメールで受け取ることやコメントシートを活用などで、学生と教員間のコミュニケーションを活発にしようと務めた。それによって教員は学生が知りたいものが何かを分かるし、学生は自分が知りたい韓国の文化についてより深く理解できるようになり、韓国語や韓国の文化により興味を持つようになったと思われる。今後も、学生と教員のコミュニケーションを活発に行って、韓国の文化と言葉についてより深く理解できるように改善していく。</p>
1112	基盤教育群	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	<p>There are some steps to be taken in order to improve the Spanish class:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. After each lesson, via feedback, there will be a time when the students can let the teacher know their impression, that is, if the lesson was completely understood, if they want more explanations about a particular point, etc. 2. After each lesson, before working on a new one, the most important points will be reviewed through oral and written exercises to confirm in real time that the students grasp the material and can apply it. 3. Homework and written exercises from the textbook, specially those whose content is important to be understood for better results in exams, will be discussed in class. 4. Pair work will be incorporated in some activities to gain confidence and encourage communication.
1114	基盤教育群	グローバル・ビジネス/Global Business	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の内容や講義で用いた資料について高評価を得た。 ・ 他方で、Teamsの操作について指摘があったので、次年度の講義では気を付けたい。
1115	基盤教育群	憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料が分かりやすくまとめられていた、時事問題を当てはめた解説がわかりやすかった、等の評価を得た。引き続き、分かりやすい丁寧な授業を心がけたい。 ・ 受講生数が多く、講義室のキャパを超えているという指摘があったため、講義環境改善の余地がある。
1116	基盤教育群	政治学概論	<p>授業後にコメントを求め、次回授業の冒頭にそれに答えているが、この方式が好評であった。他の学生の疑問点を知ることも、興味深いようである。今後もこの方式を続けていきたい。また、時事問題を取りあげることも、関心を持つきっかけになるようである。これも続けていきたい。</p> <p>「改善した方が良い点」がアンケートでは出されていなかったが、全ての質問項目で、平均より僅かに下であった。担当教員としては、こうした結果は初めての事態である。昨年度から大きく構成を変えたわけでないため、やや困惑している。学生のコメントをもっとうながして、学生のニーズを把握していきたい。</p>
1117	基盤教育群	国際関係論（食産）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「言葉が難しく理解しづらかったのでわかりやすく解説していただきたい」という指摘があったので、丁寧な説明を心がけたい。一方で、分からない言葉があれば教員に質問するか、自分で調べる等の努力もして欲しい。
1118	基盤教育群	社会と経済	<p>アンケートの集計結果について、全学的なプログラムの不具合により回答率が低かったが、参考にして、以下意見を述べる。一つは、「難易・進度の適切性」であった。難易度を平易にすることは学生のためにならないので、容量を減らすべきか検討したい。上述の事前学習の時間の少なさも起因している可能性があり、バランスを取りたい。もう一つは、「学生自身の授業目標到達度」であった。講義中に例題を解く時間を設けているが、その時間をより多くするか検討したい。</p>
1119	基盤教育群	現代東北社会論	<p>○授業評価アンケートの結果からは、分かりやすさ・要点や内容・教材・目標設定など、概ねにおいて良好に捉えられているようですので、このまま継続していきたいと思えます。</p> <p>○一方で、授業時間外の学習は不足しているようです。「いまの東北」をみなさんそれぞれに捉えることがポイントとなる授業なので、みなさんの普段からの情報収集や学びが大きな意味をもたらします。授業でも必要な学習はフォローしていきますが、みなさんもより主体的に新聞やニュースに分析的に触れておくなど、普段の学習を心がけてもらえればと思います。</p>

令和6年度後期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1120	基盤教育群	社会の諸相	肯定的な意見はあれど、否定的な意見が寄せられていないので（新たな小ネタを仕込むことを除き）現状を維持したいと思います。また、コロナの後遺症で咳が止まらぬことを心配していただき、教師冥利に尽きる思いです。
1121	基盤教育群	数理科学	<p>■自由記述一覧（すべて転載）</p> <p>□この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い ・例えが面白く、身近で理解しやすかった。 <p>□改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書が欲しいです、しかしテストの難易度を今のままだったら教科書はいらないと感じました。 ・課題のプリントの答えがすぐに欲しい <p>□その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題のプリントの答えが欲しい
1122	基盤教育群	生命科学（食産）	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】（抜粋）</p> <p>ディスカッションを通して他の人と意見を交換し合える点が良かったと思いました。意見を交換し合うことで、自分とは異なる視点から授業内容を振り返ることができ、授業内容への興味が深まったと感じました。</p> <p>高校で生物を履修していなくても面白いと感じた。</p> <p>ディスカッションという事後学習の仕方が面白いと思いました。何度か選ばれたのでうれしかったです。また、自分のコメントに対して他の方がコメントをくれると嬉しかったです。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストにでるポイントや、大切な用語を示して欲しい。 <p>→（改善策）授業中に指示するようにします。</p>
1124	基盤教育群	地球と宇宙	<p>【よかった点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメで授業の内容が整理されていてわかりやすかったです。 ・時事的な関連話題を取り入れたり、ユニークな例えを取り入れたり、私達が理解しやすくなる工夫が多くて助かった。 ・Formsを使ってくださったりしたので受け身じゃない授業で楽しかった。 <p>→ 今後も時事的な話題を取り入れたり、Formsを通じた意見共有などを行い、講義内容への興味関心が強くなるよう工夫していきたいと思います。</p> <p>【改善したほうがよい点】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の終盤、複雑な図表が多く、分かりづらかった。 ・資料の文字と図が離れているが、文字のそばに対応する図をおいた方が読みやすかった。 <p>→ 複雑な図表については、より丁寧な説明を心がけたいと思います。文字情報と図表が離れている点については、大きな修正を行う予定はありませんが、講義で両者の対応関係が明確に分かるように、より強調して示していきたいと思います。</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感想に対してコメントする場面が面白かった。 ・冒頭のニュースの紹介も含め、興味深い話題が多く、楽しんで授業を受けられました。 <p>→ できるだけ学生の見解に対してコメントを返せるように、今後もFormsをうまく活用していきたいと思います。</p>
1125	基盤教育群	数学概論（食産）	<p>■自由記載より（すべて転載）</p> <p>□この授業に関して、良かった点</p> <p>数学概論だけは眠気をほとんど感じさせず楽しんで学ぶことができた。</p> <p>□改善したほうがよい点</p> <p>（記載なし）</p> <p>□その他、意見、感想、要望など</p> <p>（記載なし）</p>
1126	基盤教育群	物理概論（食産）	<p>少人数の開講であり、アクティブラーニングには適した環境であり、簡単な質問・課題に対する議論などを取り入れてきた。また映像を多く使うなどして理解度の向上に努めたが、学生自身の到達度がやや低く、今後は小レポートの作成など、アウトプットする機会を多くしていきたい。</p>

令和6年度後期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1127	基盤教育群	美術	<p>本講座は、「学生自身の授業目標達成度」が全授業の平均値より2.6ポイント高いのを筆頭に、ほぼすべての評価項目で、平均値を超えています。しかし、唯一平均値を下回っていたのが、「授業マナー遵守への配慮」です。170名を超える大規模クラスですが、通常は、私語もなく、パワーポイントのスライドに集中して授業を聞いてもらっていました。しかし、全講義の中で2度ほど、私語が気になったことがありました。これに対して、注意というよりも、私語を指摘するとともに、「基本的に授業中に私語が起こるのは、その授業が面白くないからで私の責任なので申し訳ない」と謝った記憶があります。これは、大学生にもなっている人たちに授業マナーを指導したくないとの強い思いがあり、そもそも講義が面白ければ私語など起こるはずがないとの自信もあったからです。事実、ほぼ講義のみによる目標達成度の高さや授業が面白かったとする自由記述の多数の意見からも分かるように、ほとんどの学生が講義を楽しんでいただき、集中して聞いているので、問題は無いと判断し、「授業マナー遵守への配慮」を、積極的に指導することはなかったのです。しかし、この数値から見えてきたのは、2, 3回ではあっても、こうした授業マナーに対して迷惑を被っている人が少なからずいて、講義を集中して聞きたいのに聞けないといった不満があるのだと気づかされました。今後は、適宜、授業マナーへの指導を行うとともに、私語の起こることのないよう、より面白い講義を心がけたいと考えています。</p>
1131	基盤教育群	日本の歴史と文化（食産）	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的には概ね肯定的に評価されているので、今後も大枠は維持していきたいと思えます。</p> <p>○授業アンケートでは、歴史に対する苦手意識を克服し、授業の目的である「歴史を思考する」ことが出来ているようです。履修者みなさんの努力の結果なので、今後履修する皆さんにも引き継がれることを期待しますし、授業でもそれを可能とするようなフォローはしていきたいと思えます。</p> <p>○一方で、授業外の学習時間は若干不足気味の傾向にあるようです。時間外学修用の素材を提供するなど、授業外学習をフォローできるように取り組んでいきたいと思えます。</p>
1132	基盤教育群	心理学（食産）	<p>この講義で用いられている教材や説明方法、難易度や進み方、知識や技術の習得・知的好奇心の喚起については、一定の評価をいただいているようですので、次年度も、体験的な理解を大切に、引き続き継続していきたいと考えています。</p> <p>その一方で、シラバスの授業計画と実際の講義内容との対応関係が十分示されていなかったようですので、次年度の授業計画の記載に修正・変更を加え、わかりやすくしたいと思います。</p> <p>マナー配慮については、私語等、講義を直接的に妨げる行為があまり見られませんでしたので、注意等はほとんど行いませんでした。出席確認の方法については、現在取っている方法を継続して欲しいとのご意見がありましたので、次年度も同じ方法で確認させていただくことにします。</p>
1133	基盤教育群	健康科学（食産）	<p>引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。事前・事後学修については、担当教員単位でより具体的な教示や声かけを行う。また、出席確認方法の点検と見直しを進める。</p>
1134	基盤教育群	スポーツ実技（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>感染症対策等のため制限される活動もありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通りに進めることができました。ほぼ全ての項目が全学平均を上回っていたことや、レスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習効果が得られたものと考えています。</p> <p>一方、『改善すべき点』として、●レスポンスシートの期限を延長してほしい（アルバイトのため）、といった意見がありました。本来、レスポンスシートには、実技のフィーリングを鮮明に覚えているうちに記載していただきたいと思い、かつ余裕をもって当日の21時としています。ただ、毎回の授業でも説明していますように、実技終了後の体調変化も含め、個々の事情によって期限内の提出が難しい場合は個別メールをいただき、翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調最優先にしています）。次年度以降については提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと考えています。</p> <p>また、『その他』として、●2年生以降も体育を継続してできるような授業がほしい、という意見がありました。担当者の立場としても、継続的な健康づくりの機会が増えることを望んでいますが、カリキュラム上の制限等もありますので、ガイダンスで説明した通り、本学では個別・グループ別に健康づくりやダイエット、各種トレーニングの指導も行っています。機会がありましたらいつでもご連絡ください。</p>

令和6年度後期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
1135	基盤教育群	体を動かす楽しみ	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>授業評価アンケートでは『良かった点』として、●たくさんコミュニケーションがとれて楽しかった、●自分自身の身体と向き合えて考えることができた、●提出物に対する説明が丁寧に行われていた、といった意見をいただきました。これらに加え、全項目で全学平均を上回ったことや、毎回提出のレスポンスシートの内容、授業の様子等から、一定の満足度、学習成果等が得られたものと思われます。</p> <p>一方、『改善すべき点』として、●シラバスに記載の授業予定通りに進めてほしい、という意見がありました。今期はほぼシラバス通りに進んだので、ご指摘の部分はおそらく種目の入れ替えのことかと思われますが、シラバスには、受講生の状況（人数、運動能力等）によって、小グループでローテーションしたり、より適切な種目に変更したりする場合、また感染症や気温等によって内容変更、教室変更の場合もあることを記載し、初回ガイダンスでも説明しています。ただ、次年度以降は、受講生全員に正しく理解していただけるよう、シラバスの確認と初回ガイダンスの説明を強調していきたいと思います。</p> <p>『その他』としては、●レスポンスシートの期限を、2時間ほど延長してほしい、という意見がありました。本来、レスポンスシートには、実技のフィーリングを鮮明に覚えているうちに記載していただきたいと思っておりますが、毎回の授業でも説明していますように、実技終了後の体調変化も含め、個々の事情によって期限内の提出が難しい場合は個別メールをいただき、翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調最優先にしています）。次年度以降については提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと考えています。</p>
1136	基盤教育群	スポーツ科学（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>自由記述はありませんでしたが、受講したみなさんのレスポンスシートの内容、まとめレポート等から、シラバスの到達目標等は概ね達成できたかと思われます。本科目で取り上げた内容を今後の健康づくりにも活かしていただければ担当者としても嬉しいです。</p> <p>本学には文系、理系の方がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、かつ受講生の得意・苦手な分野も考慮しながら、シラバスの範囲で毎回の内容を検討し、必要に応じて個別対応（補習的な内容、応用的な内容、リモート指導含む）を行っています。年度ごとの文系、理系のバランスによって専門的な内容になることもありますので、次年度以降も授業以外でサポートできる体制をより強化していきたいと考えています。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2101	看護学群	疫学Ⅱ	<p>学生からの意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>国家試験対策に関する内容の充実 ・2回の小テストに加え、毎講義後の課題として国家試験に関連する問題を提示し、次回の講義で解答と解説を行なったが、講義中に講義内容に関する課題を提示し、その後解答と解説を行うことも良いかもしれない。</p> <p>さらなる知見と新しい情報の提供 ・国家試験と就職した先の職業人としての活躍を考えるとそれだけでないさらなる高度な講義内容も必要だと感じている。医療を取り巻く状況や日本における疾病の構造も変化しているため、常に新しい情報を提供する事としたい。</p>
2102	看護学群	災害看護支援論	<p>本科目の回答平均値は大学全講義の平均値に比べると、全ての項目が上回っており、履修登録者の高い達成感や満足感が得られたことがわかる。今年度も例年と同様にゲスト講師を招聘したが、災害直後の被災地での活動経験を持つ災害看護の専門家を数名招き、対面授業で教授した。具体的には、災害時の精神医療活動であるDPAT看護師と医療活動を行うDMAT看護師、災害慢性期における実践家である精神科認定看護師を招いて講義を行っていただいたため、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の向上につながったと考えられる。本講義は4年後期に開講となるため、卒業後の自身のロールモデルとして捉えている可能性がある。そのため、知的関心の喚起の向上にもつながっていることが考えられる。講義テーマに関して、前期の救急・災害看護論と継続性を持たせ、前期の授業で既習の知識を演習などを通して理解を深め、実践力を高めることを目指した。今年度のフィールドワークは、例年と同様に、令和元年台風19号の被災地域でもある丸森町をフィールドに現地での講話を依頼した。講師は保健師、看護師、復興担当事務職員と発災当時に地域の小学校に努めていた養護教諭に依頼した。また、被災時の活動拠点でもある病院・避難所・仮設住宅・小学校での活動の実際について、活動経験のある講師陣から被災時の活動について講話いただき、グループワークを通して学びを深めることができたと考えられる。また、受講生から、フィールドワークや演習時間が多く、学生同士で意見交換を行うことが良かったと意見が聞かれた。引き続き、災害看護支援について実践的な学びが深められるような内容を計画していく。</p>
2103	看護学群	公衆衛生看護マネジメント	<p>・公衆衛生看護マネジメントという科目の中で、産業保健・学校保健・行政における事業立案といった多くの内容を扱っていたため、科目としてのバランスが良くなかったと考える。その点が授業計画のわかりやすさの低さにつながったと考える。</p> <p>・全体的には良い評価をいただいているため、次年度より新カリキュラムに移行するため、授業計画に反映させていく。</p>
2105	看護学群	教職実践演習（養護教諭）	<p>養護教諭になるための学習の総まとめの位置付けになる科目です。</p> <p>これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子どもたちを育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。</p> <p>受講生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、今後とも受講生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思ひます</p>
2106	看護学群	臨床心理学	<p>全ての評価項目が平均を上回っており適切に授業が運営されたと評価できる。以下の改善を行う。</p> <p>・小テストに出題ミス（問題と正答に誤り）があったため、問題の点検し改善を行う。</p> <p>・期末レポートの要項を授業中盤回の段階で早期公開する。</p> <p>・事前事後学習のあり方が適当であるか点検し、改善を行う。</p>
2107	看護学群	人間関係論	<p>患者と医療従事者との関係性についての説明で、私自身の患者や家族としての経験を例としてあげた際に、そのリアルさに不快感や不安を持たれた方がおられたようです。医療の場では、患者や家族が医療従事者に対して、本当に感じていることや考えていることを伝えるに難しい実態があり、医療従事者は患者や家族の心の内に常に注意を向けて欲しいこと、また実際的な問題として、いろいろな患者や家族があり、それに医療従事者は対応していかなくてはならないということをお伝えしたいという私の意図をぜひご理解いただきたいと思ひます。また、医療現場におけるパターナリズム（父権主義）についての説明を批判的に捉えた方もおられるようです。このパターナリズムの問題は、患者の自己決定権やインフォームドコンセントとの兼ね合いもあって、医療現場における倫理的な課題となっており、これを理解して欲しいと考えたところです。私の説明の仕方に不快感や不安を持たれた方にお詫び申し上げます。その一方で、医療従事者を目指す方には、ぜひ上であげた2つの問題にぜひ意識的に取り組んで欲しいとも考えております。なお、次年度については、この2点の説明については、説明の仕方を改善するとともに、上の2点についての私の意図をきちんと伝えるようにしていきたいと思ひます。</p> <p>このほか、今年度は授業担当者である私が病欠で最初の講義を対面で行うことができなかったこと、コミュニケーションゲームを100名規模で実施した経験がこれまでなく、道具や資料の配布・回収等に手間取ってしまったこと、など、授業計画や講義での時間配分に混乱が生じました。次年度については、このような事態にも対応できるよう、ゆとりのある授業計画にしていきたいと考えております。また、学生さんへの連絡手段としては、WebClassのタイムラインではなく、メール機能を用いることにします。ご指摘いただいた方、ありがとうございました。受講生の皆さんからのご意見は私に対する期待と受け止めています。その一方で、私が皆さんにお話しているいろいろな課題は、私から医療従事者の卵である皆さんへの期待だと考えていただけると大変ありがたいです。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2108	看護学群	形態機能学Ⅲ	<p>資料が見やすかった。 私たちが理解しにくいところは、補足資料を入れてくださる点がいい。 資料が見にくい。 資料でたくさんの方が書かれていてわかりにくい部分があった。</p> <p>回答： ・初回に説明しているように主体的かつ論理的思考に基づく学修が大前提です。主体的に、授業中授業後などに、分かりづらい点や見辛い点などは具体的に指摘してください。質疑応答できますし、改善もできます。具体的に指摘がなければ対応しません。 ・"論理的に考える"ことを理解せずに全くちがう意味に曲解している学生がいるので、"論理的に考える"ことを身につけること ・WebClassに資料をアップしているので本来紙配布資料を提供する必要はないのですが、毎年数人かの要望があったので紙配布資料を提供しています。字が小さい場合などはWebClassのPDFを拡大することで対応できます。なお、字の大きさは基本28-24ポイント以上、一つにまとめる必要がある場合18-16ポイント以上にできるだけしています。通常のテキストは11や10.5ポイントが通常です。そして配布資料は授業の単なるプロジェクター用資料ではなく、学生が学習時何度も読み込むための資料、テキストです。単に図や字の大きさだけで、一つにすべき事をバラバラにすれば論理的な事柄が分裂しやすく、枚数も60~100枚と膨大になってしまいます。単なる暗記項目や飛び飛びの論理は提供しません。 ・資料は基本的に一度読めば済む資料（発表会資料はその典型 そのかわり丁寧な詳細説明はほとんどつけない）ではなく、何度も熟読し考察し自ら深く理解するための学修用の資料です。バラバラにせず1セットで学んで欲しい事柄、これまで学修した事柄と因果関係・関連性を踏まえた新たな情報を整理して1枚に収めます。これは資料の枚数を最小限にすることにもなります。 ・資料の枚数はかなり増えますが、俯瞰的な情報をばらして1枚あたり1つの事柄だけにし、さらに今まで通りの俯瞰的な資料を加えることができます。 ・皆さんが思っている以上に学修すべき事は多いです。真面目に学習すれば教えないことで混乱しそうな点や疑問に思いそうな点も含め理解するために必要最小限な情報に絞っています。説明する事柄を減らして後は学生の自主性とすれば非常に非常に簡単な内容で一見分かりやすい授業になりますが、以前説明したように「分からないことが分からない」学生も出てきます。 ・資料にないこともわざと加えたりもします。卒業後、資料がないからわからないは通用しません。口頭伝達のみもかなり増えます。自分で記録する力をつけるべきです。また、最低限忘れても現段階で問題ないけど意欲がある学生には追加情報として知ってもいいよということも多々あり、口頭のみで話します。</p> <p>小テストの制限時間が短いと感じることが多く、問題文を読み終えて、考えている時間がとれなかった。 回答： ・カンニング防止のためもありますが、十分に対応可能です。学修のために十分な小テスト公開期間を設けています。</p> <p>期末テスト難しかったです 回答： ・考え、議論し、質問し主体的に学習すれば分かる問題であり、難しいのは学習が足りていません。皆さんが大学期間に習得しなければならないのは、暗記事項より論理的に思考する事です。また、特に皆さんは抽象化と具象化の論理的思考を苦手に行っている傾向があり、神経や内分泌に助実にその傾向が見られます。例えば一見簡単な言葉で説明された専門用語を看護の現場でも観察されるであろう具体的な事象に落とし込むことができますか。暗記ごとは容易に分かったと思いがやすいですが、論理的思考力を伸ばさず場合は直ぐに結果を伴いません。だからこそ日頃の主体的学習が重要であり、卒業後に論理的思考力を身につければいいと考えるのは論外であり苦勞することになります。十分に学習する機会となる大学だからこそです。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2109	看護学群	薬理学	<p>資料が見やすかった。 資料が見にくい。 授業内容の理解に苦しみました。 回答： ・まず主体的に具体的な要望をしかるべき時にだしていただければ、その場で相談して対応します。具体的に要望を講義後などに出した学生はいず、主体性に欠け残念です。 ・まずただ暗記することだけを勉強したり、飛躍した飛び飛びの論理性を「わかった」と思い込まないように注意してください。 ・本来、WebClassにPDFをアップしているので紙配布資料は無くてもいいのですが、希望があったので紙配布資料を提供しています。WebClassにPDFをアップしてますから文字が小さい場合は拡大もできます。資料は授業のスライド用ではなく、自分で学習するときの資料です。通常の教科書（通常、大きくても11ポイントが多い。見えてますよね。）と比べかなり字の大きさもあります。基本28ポイント以上で、どうしても1つにまとめる必要がある場合に18ポイント以上、やむなくそれより小さい場合もあります。次の字の大きさのみでなく、論理性のまとまりなく1枚ずつに内容をバラバラにすると60、いや100スライドになり非常に厚く重い資料になります。 ・皆さんが思っている以上に学修すべき事は多いです。流行として簡単なことだけをちょっと教えて、あとは自主学習すればいいという考えもありますが、主体的に学修する学生はそれで十分ですが主体的ではない学生はさらに学習しない対応をとり全体の底上げはできません。真面目に学習すれば教えないことで混乱しそうな点や疑問に思いそうな点も含め理解するために必要最小限な情報に絞っています。説明する事柄を減らして後は学生の自主性とすれば非常に非常に簡単な内容で一見分かりやすい授業になります。主体的に積極的に学修するヒトは自分で疑問点も調べて授業以上のレベルを獲得してきますが、一方端折られた簡単な内容だけで納得してしまい「分からないことが分からない」ヒトも出てきます。 ・分かりづらい点は具体的に指摘してください。改善できます。具体的に指摘がなくなれば変わりません。 ・資料は基本的に一度読めば済む資料（発表会資料はその典型 そのかわり丁寧な詳細説明はほとんどつけない）ではなく、何度も熟読し考察し自ら深く理解するための学修用の資料です。バラバラにせず1セットで学んで欲しい事柄、これまで学修した事柄と因果関係・関連性を踏まえた新たな情報を整理して1枚に収めます。これは資料の枚数を最小限にすることにもなります。 ・資料の枚数はかなり増えますが、俯瞰的な情報をばらして1枚あたり1つの事柄だけにし、さらに今まで通りの俯瞰的な資料を加えることができます。</p>
2110	看護学群	栄養学	<p>化学、生物に関する基礎知識が必要な授業であり、本科目に関連した既習の科目を含めた事前事後学修が望まれる。☒</p>
2111	看護学群	公衆衛生学	<p>学生の意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>学生のモチベーション向上のための対策 ・1年生の講義の講義であるため、知識の伝達と同じように学生が学習への意欲を高めることが重要である。そのための対策として、外部の講師を招聘し、病院だけではなく様々な場所で看護師は必要とされていることを伝え、自身のキャリアを考えるきっかけとしての機能をこの講義が持つようになることを考えたい。</p> <p>講義内容の検討 ・公衆衛生学は広範囲にわたる分野であり、教科書のボリュームも大きい。講義の途中で小テストを取り入れるなどの対策を考えたことはあるが、小テストと解説に時間を使ってしまうと講義範囲の解説が難しくなってしまう可能性があり、小テストを断念したことがある。そのため、課題の提示と解説の比重を高くすることを検討したい。 ・講義内容は年によって更新される部分もあるため、常に新しい情報を提示するために講義前には情報の確認を怠らない。</p>
2112	看護学群	疫学Ⅰ	<p>学生からの意見などを踏まえて、以下の改善を検討したい。</p> <p>内容の充実 ・「わかりにくい」「難しい」などの感想を聞くことが多いため、なるべく平易な表現を利用しつつ、解説に努めることが重要であると認識している。他の医学や看護学と異なる考え方もあるため、考え方の伝授も重要であると考え。</p> <p>学生との相互関係の構築の検討 ・前項とも関連するが、学生がわからない部分を指摘し、それに対する解説を行うことができるようなプラットフォームの利用を検討する。わからないまま終わるよりは時間がかかっても理解できることの方が重要であること、わからない部分は個人によって異なる可能性があることが、その理由である。</p>
2113	看護学群	疾病論Ⅲ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2114	看護学群	看護実践論	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の評価は授業マナー遵守の配慮で全体評価よりも高く、他は全学平均と同程度のものでした。 ・自由記述には「事前課題・事後課題があったことで授業外の学習を積極的に行うことができた。」とのコメントがあり、課題を通して到達目標の達成にも至ることができていたと評価します。 ・担当教員間で前年度の授業を振り返り、改善した結果がみなさんの成績として表れていたと評価しています。次年度も学生の反応を捉え、適切なタイミングでフィードバックを行いながら授業を運営していきます。
2115	看護学群	ライフステージ看護学概論Ⅰ	<p>各ライフステージにある人を理解する知識を講義し、ワークとしてライフステージ各期を経験してきた高齢者の体験を聞き、看護の対象者への理解を深める科目である。本科目だけでなく、人間発達学や形態機能学等の既習科目の学修と連動して、学修目標を到達できた。授業後のアンケートの記述回答からも目標を的確に捉えて学修できていると捉えられ、シラバスを継続する。</p> <p><記述回答一部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に地域の方との交流会という機会は設けることができないと感じたため、経験することができてよかった。 ・ライフステージ別に違う先生の講義を聞いて、各ライフステージについて理解を深めることが出来た。 ・各ライフステージ毎にまとめなどがあり、統括して理解することが出来た。 ・小テストを各ライフステージごとに行ってくれた。高齢者との交流会がとてもよかった。 <p>改善が必要な点として、最後まとめで使用したteamsミーティングが、使い慣れず支障があったとの意見があり、複数の教室を使用してワークした後のまとめのあり方を検討する。</p>
2116	看護学群	家族看護論	<p>「実際にジェノグラムやエコマップを事例を通して書いたことで実践的な学びに繋がった」などのコメントがありました。授業内でアセスメント（家族システムを把握する）演習の積み重ねは、家族を捉える力になると考えられます。学びとしての実感を体験してもらえたのであればよかったと思います。一方、「エコマップの記載の文言等が教科書、教員、プリントで多少異なっており、混乱してしまうため統一してほしいと感じた」というコメントもありました。家族の捉え方やジェノグラムの書き方は、様々な家族療法の派や様々な看護モデルにより、臨床の場面でもさまざまであり、統一できていないところがあります。そういった臨床の状況や様々な看護モデルがあることについても、今後はより伝えて行くように改善します。また、「テスト対策が難しいと感じた」というコメントがありましたので、授業の中で小テストを行ったりと、テストのポイントも明確にできるように工夫していきます。</p>
2117	看護学群	災害活動論	<p>選択科目で、災害看護に関心のある皆さんが履修している科目であり、毎回の講義の振り返りや、外部講師からの講義、演習等を通して様々なことを考え、思考を深めることができたのではないかと思います。全体的な構成として、実践的な内容が多くなっていったこともあり、1年生の科目として、もう少し、災害に関わる社会のしくみや法制度等に関する知識を身に付ける学習も取り入れたいと考えています。令和7年度は、災害対策や災害看護の基礎的知識の学習を強化した内容で展開するよう計画しています。</p>
2118	看護学群	看護英語	<p>「実際にネパールインドの人達の話聞いたことがとても良かった」というコメントがありました。看護の現象や看護実践について、実際に外国の方と英語で意見交換ができることは、英語を学習することや、英語で看護を探究することの意義を実感したり、国際的が視野が広がる貴重な機会になったと思います。看護について、英語で意見交換をする学習の機会を継続できるように、そして、外部講師の方との連携を大切に、よりよい看護英語の学習の場を作っていきたいと思います。</p>
2119	看護学群	看護技術論	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の評価は、全ての項目において全学平均を上回るものでした。 ・この科目は、看護を実践していくための基礎となる内容を教授する科目です。演習（ワーク）を取り入れながら実施したこと、学生にも理解できる説明を行ったことで、理解を深めることにつながったと評価します。 ・小テストは復習になるとの意見もあり、実施について前向きに計画していきたいと思っています。
2120	看護学群	看護技術各論Ⅰ	<p>本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。自由記述においても授業内容の分かりやすさや資料の見やすさ、看護援助技術に対する興味・関心をもって授業を受けることができた等、良いコメントをいただきました。今後も学生の皆さんにとって分かりやすく、少しでも看護への関心・興味をもちながら看護技術の理解や習得につながるよう、教員の臨床での看護実践経験を活かした授業計画・運営に取り組んでいきます。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2121	看護学群	看護技術各論演習Ⅰ	<p>本科目の授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、評価は良好でした。また、授業外の学習時間も全学の平均値よりも2時間以上も上回っており、皆さんが演習の事前・事後課題や技術習得に向けて自己練習に取り組んでいたことが伺えました。自由記述では、事前課題や事後課題へのコメントなどに教員が丁寧に対応してくれた、演習中に教員に質問しやすくその場で疑問を解決することができた、演習で担当する教員が変わることで新たな視点を得る機会になった等、良いコメントをいただきました。学生の皆さんが看護技術各論Ⅰで学んだ知識を活用し、看護技術の習得度を高めていくことができるように授業計画・運営に取り組んでいきます。</p>
2122	看護学群	母性看護援助論Ⅰ	<p>母性看護援助論Ⅰは、妊娠期・分娩期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが大変熱心に当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「授業マナー遵守への配慮」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」は高得点が得られました。当科目が特に重きを置くDPは「知識・技術」ですので、ねらい通りに皆さんが学ぶことができたことを嬉しく思います。自由記載欄には「写真や映像資料を用いた分かりやすい講義資料で理解がしやすかった」との意見もみられ、教材と説明の適切性についても満足いただける内容だったことがうかがえました。また、「羊水検査についての学習では、ディベートで色々な人の意見を知ることができて、とてもおもしろい授業でした」「より自分ごととして身近に感じ、理解を深めることに繋がったと思います」との感想も見られ、ディベートをめぐって皆さんが主体的・能動的に学習したことが読み取れました。さらに、「出産の尊さについて考えることができるきっかけになった」「本当に母性看護に携わることに対してのあこがれとかっこよさを知った授業でした」など、知識・技術の習得にとどまらず生命や母性看護に関する知的好奇心が満たされる経験をした学生がいたことをとても喜ばしく思います。ディベートは有効な学習方法であったと考えるため、次年度も実施したいと考えます。</p> <p>一方、改善点として、授業資料の量が多すぎる、どこを重点的に学習すべきかを教えて欲しかった、テストの記述が多すぎる、テストの形式を事前に教えてほしかったなど、授業資料やテストに関する意見もいただきました。期末テストの問題は全て授業で教授した内容をもとに作成されており、毎回の授業後には小テストを実施して期末テストにつながる学習を促しておりましたが、その意識づけが十分でなかった可能性があります。テストの形式を教えることについても、何をどの程度までお伝えすると良いかなど難しい面がありますが、皆さんの学習の動機づけにつながる教育の方向性を今後検討してまいります。貴重なご意見をどうもありがとうございました。</p>
2123	看護学群	小児看護援助論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定の課題では、今年度はじめて動画での提出をしてもらいました。みなさんが測定に取り組んでいる様子は、動画でしっかり確認することができました。画質に関しても問題のある動画はありませんでした。一方で、動画の送信がうまくいかなかった方もいましたので、次年度は提出方法やサポート体制について改善していきたいと思います。 ・課題の提出期限について「短く感じた」とのご意見をいただきました。今後、みなさんがじっくり取り組めるように提出期限の設定について見直しを行っていききたいと思います。 ・技術演習に関しては、「実演グループの選択基準」や「実演の有無が評価に影響するか」といったご質問をいただきました。課題提示の際にも説明した通り、すべてのグループに実演するという思いがありますが、時間の都合上、毎回それを実現するのは難しい状況です。今回の演習では、当日に皆さんに実演の希望を確認しましたが、希望するグループがなかったため、無作為にグループを選ばせていただきました。また、技術演習の評価については、事前に示したルーブリックに基づき、公平に行っています。また、課題提示の際に説明した通り、実演だけではなく、質疑応答などの取り組みも評価の対象となっており、実演を行いフィードバックを受けたことで不利な評価となることはありませんので、ご安心ください。
2124	看護学群	精神看護援助論Ⅰ	<p>精神看護援助論Ⅰでは、新たな教員の体制で授業を展開しました。レポートの期限が短いなどのコメントがありましたので、見直していききたいと思います。</p> <p>「レスポンスで出た質問に対して丁寧に回答してくださっていたので、授業内容の理解を深めることができました。」「前回の授業で出た質問に対して次の授業の冒頭で答えてくださるのがありがたかったです。個人で質問しに行くよりもハードルが低くて助かりました。」とのコメントがありました。毎回、回を重ねるごとに、皆さんの質問が鋭くなってきていることも教員として感じていました。一人一人の疑問や学びの探求心を大切に、引き続き丁寧なフィードバックを心がけ、精神看護の探求を教員と学生とで一緒に取り組んでいきたいです。</p> <p>また、「実際に疾患に罹患した人や罹患した人を身近で支えた人に話を聞く事が出来たのは非常に有益であったと感じた」とのコメントがありました。病いの体験は、当事者でしか分からないことがあり、病を体験している専門家からの講義で、理解が深まることがたくさんありますので、ゲストスピーカーによる講義も、引き続き行いながら、精神看護を展開する上での有意義な学習の機会を提供し続けられるようにします。</p>

令和6年度後期授業改善計画（看護学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
2125	看護学群	在宅看護援助論Ⅰ	授業評価アンケートへの記載ありがとうございました。授業後の復習テストがあったことで授業の復習につながったことや、医療保険や介護保険について他の授業にも共通するもので理解が深まったという意見があり継続していきます。一方で、「授業の要点、内容の整理」「教材と説明の適切さ」が全体平均より低く、改善点として挙げられた意見を踏まえ、講義内容の精選および講義資料スライドの改善を図りたいと思います。
2129	看護学群	公衆衛生看護学原論	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問事例および3つの事例を活用した学修について肯定的な意見をいただきありがとうございます。家庭訪問事例については、新たな取り組みでしたので、引き続き実施していきたいと思います。 ・3つの事例については、全員がすべての事例を考えられるようにする時間が設けられるとよいのですが、そこまで十分な時間を確保することが難しいため、発表等のなかで深めていただければと思います。
2130	看護学群	養護概説	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目と教職関連科目（学校保健論・養護実習など）で扱う内容を整理し学生に提示することにより、養護活動の系統性や連続性を意識させる。 ・到達目標に沿った授業内容、要点の提示などについて検討・改善を加える。
2131	看護学群	教育課程論	事前・事後学修の方法について再度、レクチャーを行うことを意識したい。協働的な学習を意識した取り組みと、ゲスト講師（現職教員）の講義からの関心の高まりが確認されたことから、次年度も引き続き検討したい。
2132	看護学群	教育相談の基礎と方法	<p>この講義で用いられている教材や説明方法、難易度や進み方、知識や技術の習得・知的好奇心の喚起については、一定の評価をいただいているようですので、次年度も、引き続き継続していきたいと考えています。</p> <p>その一方で、シラバスの授業計画と実際の講義内容との対応関係が十分示されていなかったようですので、次年度の授業計画の記載に修正・変更を加え、わかりやすくしたいと考えています。</p>

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3101	事業構想学群	価値創造デザイン基礎	授業評価について学類選択の参考になった、先生たちの対談形式が面白かった、デザインという言葉への理解が深まった、デザインでも様々な役割から地域にアプローチする方法が学べたなど、よかった点としてコメントをいただいています。引き続き、この形式で価値創造デザインの役割、方向性がよくわかるような授業と教材作りを通じて改善していきます。
3102	事業構想学群	事業プランニング基礎	授業評価の内容を踏まえて、今後も改善していく予定である。
3103	事業構想学群	地域創生基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・学類配属の選択について参考になる講義だった。多くの方の話を聞いた。などの自由記述があり、オムニバス形式で実施しているメリットが表われているものと考えられる。地域創生学類の魅力がこれまで以上に伝わるよう、わかりやすかつ専門性のある講義を心掛けたい。 ・本講義では、一部で外部講師をお招きし実施しており、自治体職員や民間事業者により講演をいただいている。このため、最新の社会課題やその対応についての理解を深めることができ、学生のわかりやすさに繋がっているものと考えられる。
3104	事業構想学群	地域活性化とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に地域で働く人の声を数多く聞いた為、地域創生の道を歩む後押しをされた。実際に外部の方から話を聞き、解決案を考えることによって、より将来の可能性を感じることが出来た。などの自由記述があり、外部講師を招き実施しているメリットが表われているものと考えられる。地域創生学類の魅力がこれまで以上に伝わるよう、わかりやすかつ専門性のある講義を心掛けたい。 ・本講義では、外部講師として国の専門機関や民間事業者により講演をいただいている。このため、地域社会課題やその環境下でのビジネス実施について理解を深めることができ、学生にとって適切な難易度の講義に繋がっているものと考えられる。
3105	事業構想学群	事業構想特別講義Ⅰ（郷古）	<p>ADBによる特別講座は今回限りとなる。</p> <p>ADBという世界各地で活躍する有名団体の人たちから、グローバルな視点での人道支援やまちづくりについて学ぶ事が出来たという意見があった。学生の視野を広げる意味においても、機会を見つけて外部講師等による特別講義の企画を検討したい。</p> <p>また、すべて英語で講義を行った回もあった。学生の満足度も高く、語学以外の講義においてもこのような機会を設けることを検討したい。</p>
3105	事業構想学群	事業構想特別講義Ⅰ（石内）	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多くの外部講師の方が来てくださるのがとても学びになった。」、「毎時間異なる講師が講義をしてくださるので、さまざまな分野に関するお話を聞くことができた。」、「ADBという世界各地で活躍する有名団体の人たちに、グローバルな視点での人道支援やまちづくりについて学ぶ事が出来て、良い経験だと思った。」、「新たな視点が増えた。」といった意見を頂きました。本科目の特性上、グローバルな視点を軸とした講義内容であったため、シラバスに基づき複数の外部講師によって講義が実施されています。その結果、上記のような意見・感想が得られたと思われ、今後より一層学生のグローバルな視点から物事を考える能力が養われるよう非常勤講師の方々と連携しなから教授していきたいと考えています。 ・本講義は、外部講師の方々のご都合に併せて時間割を設計する必要があり、結果として毎週講義することが困難であったため「2コマ連続はきつかった」との改善意見が挙げられたと思われます。引き続き、外部講師の方々との日程調整に尽力することで、受講生によって学びやすい時間割設計を心がけたいと考えています。 ・当授業の授業外の学習時間の面では、全学平均よりも少ない結果となっています。今後の課題として、予習や復習に費やす時間を増やす工夫が必要があると思われます。
3106	事業構想学群	応用統計学	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>本講義では、アンケート結果により「R」の基本的な使い方を学ぶことができた、楽しかったという意見に加えて、スライドの資料を配布したことが良かった点として挙げられています。しかしながら、「当授業の授業時間外の学習時間」に着目すると、他の講義の平均と比較して学習時間数が少ないといった結果が得られています。今後の課題として、より講義時における理解が深まることを目的とし、事前・事後学習の内容について工夫する必要があると思われます。</p>
3107	事業構想学群	キャリアデザインⅡ	<p>[1]社会経済や日本の産業構造を理解し、[2]自分の活躍できる場について検討し、[3]肯定的な自己概念を持てること。これらを目標に授業を実施した。キャリアという曖昧な概念を扱う際には、それが「無意味なもの」や「つまらないもの」とならないよう、教員自身のキャリア形成、またその葛藤、女性としての悩みなどについても共有することを意識した。実際に、女性が結婚出産、育児の過程でキャリアを同時に積み上げることの困難、それには家族の支援が必要であることについてのワークショップも取り入れた。その結果、「キャリアに対する認識が変わった」等のポジティブな意見が聞かれたことはたいへん嬉しく思う。キャリアはまた、他者との違いから学ぶことも大きいと考える。今後は、オンデマンドやオンラインでも他者との関わり（対話や共有）から気づきを得られるよう授業設計を検討する。</p>
3108	事業構想学群	インターンシップ	<p>本講義では、インターンシップへの参加をできるだけ早い段階から実施してもらうことがねらいである。就職活動が早期化するなかで、少しでも社会との接点を多くもち、自らのキャリアにつなげることができればと、考えている。キャリアの考え方についてもっと知りたいというコメントがありました。他の科目においてキャリアデザインの講義があるので、そちらとも連携していくことが必要だと考える。今後、対応を検討していきたい。</p>

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3109	事業構想学群	キャリアデザインⅣ	「進路について考え直す機会になった」という声もある一方、開講タイミングが遅かった（1月下旬）ことから、インターンシップ等は終えて早期選考が進んでいる場合も多かった様子であり「最終的な企業の決め方を知りたかった」という声も見られた。就活自体は日毎月毎で進捗していくものであるため、学生の様子を見ながら調整していきたい。また今年度は集中講義であったため、事前・事後学修の時間の確保は難しかったことが考えられる。これらの事情も踏まえ、来年度は通常の講義に戻す予定である。
3110	事業構想学群	スタートアップ経営論	アントレプレナーシップの講義回については、テキストを読んだのグループディスカッションを行った。ベンチャーキャピタリストのかたの話を直接聞けたことも良かったとのコメントもあったため、引き続き方向性や非常勤講師の方の講義は継続していく
3111	事業構想学群	社会調査法	授業評価の内容を踏まえて、今後も改善していく予定である。
3113	事業構想学群	数理計画	・授業中の演習の際に、質問対応や受講生同士での相談の時間を増やしたい。 ・課題のフィードバックに時間を要したため、早期のフィードバックに努めたい。
3117	事業構想学群	マーケティング	スライドの展開が早いというコメントもあったが、学生が飽きずに講義を受けることを優先し、多めのスライドで展開が早い講義を実践した。 ※ ただし、その場合メモがとりづらくなるため、携帯でのスライド撮影を許可して講義を行った。
3118	事業構想学群	eビジネス	アンケートでは、「グループプレゼンが良かった」「全員で勉強するスタイルが楽しかった」「リアルタイムの新情報が学べた」「実践的なフィードバックが有益だった」「生成AIの最新動向が理解できた」「社会に出てから役立つコンサルのスキルを学ぶことができた」「来年度もぜひ受講したい」「他の講義も担当してほしい」などの声を多数いただいたことから、来年度も引き続き、この方向性を継続・発展させていきたいと思えます。多くの学生が高いモチベーションで講義に集中し、最後まで全力で取り組んでくれたと感じています。さらに良い講義にするため、以下の改善を実施していきます。 1) 講義名と内容の見直し ・生成AIを中心としたIT技術が急速に進化しパラダイムシフトが発生しているため、講義名や内容を最新の技術動向に合わせて改訂することを検討します。 2) 授業時間の管理 ・グループ発表の際、接続トラブルが多発したことから、発表前チェックの徹底をうながすことで未然防止を行う。また講義時間が延びてしまった場合には、次に用事がある受講者は退出しても良い旨のアナウンスを適宜行うようにします。 3) グループ相談時間のさらなる確保 ・授業内でのグループ作業時間を増やし、授業外での負担を軽減することで、学生が効率的に取り組めるよう支援します。 4) グループメンバーのシャッフル ・前期講義と同じメンバーのグループが発生したり、グループ間の実力差が生じるなどがあり、教員側でグループを決定するよう改善します。 これらの改善により、学生がより充実した学びを得られる環境を提供し、講義全体の質を向上させていきます。
3119	事業構想学群	ビジネスプロセス論	実用的な内容を習得して欲しかったため、講義内でワークやそれに対する受講生同士の相互評価に力を入れたが、その分、講義時間内に終わらなかったことがあった。ワークの内容を整理して改善したい。
3120	事業構想学群	ロジスティクス	授業アンケートの「目標到達できる内容」「難易・進度の適切性」「授業マナー遵守への配慮」は全授業の平均値をやや上回ったが、他の項目は全授業の平均値以下であった。特に「授業外の学習時間」は全授業の平均値の2分の1であった。これを改善するため、資料の事前配布や予習・復習の必要性の喚起をすることとする。
3123	事業構想学群	経営組織論	これまでと同様に、2年後期の専門領域の最重要基幹科目として、より高度な専門分野への展開のための学術的基盤として位置づけられる。一昨年、昨年よりも、受講学生の態度、取り組みについて一定の改善が確認されたことを踏まえて、授業内容、評価方法についての大きな変更を予定していない。可能な限りの「最新理論、事例、教育メソッド」を導入して、大学生が本来求められる知的好奇心を喚起し、学生自身の主体的に学習行動選択の支援をする授業実施を志向する。本年度も、第1回授業において、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」「評価方法」「評価基準」を配布して確認の指示をした。対応の遅い学生も散見されたものの、これまでよりも一定の改善傾向を確認している。履修登録はしたものの一度も出席しない学生への対応については、一教員の対応する案件ではないので、担当部局で検討していただきたい。3年以降の「就職活動」の支援を想定して、ゲスト講師として企業の人事・採用部門のご担当を招聘して、理論と実践との融合を試みる授業を実施できた（2回分）。事前「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後「疑問点が解消されたのかを確認する」は、やや予定通りに機能しないため、授業の最初と最後に周知徹底する。今後も、大学の専門科目であることを説明しているにもかかわらず、不見識な態度、発言、欠席など、学問に対する真摯な取り組みへの逆機能となる事象には、教務の担当教員を通じて、学群全体の問題として提起、対応する。

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3125	事業構想学群	経営財務	<p>「後期課程アンケート」の結果、当授業の最大値(+)と最小値(-)に、大きな乖離が見られ、平均値では全学平均に対して低めの結果であった。</p> <p>「自由記述一覧」のコメントを踏まえ、次の点を改善する計画です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義で、当日の教科書の範囲・主な項目を明示していましたが、もう少し時間を多めに取って、学習の意義も伝わるようにする ・講義の最後に、「本日の重要な専門用語・キーワード」を明示しましたが、より具体的な復習のポイントや調査する際のヒントなども付け加えます ・より面白い授業になるよう、時事問題をさらに多く取り入れます
3128	事業構想学群	公共経営	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者によるアンケート結果の数値も高い傾向にあり、授業内容については概ね良好であったと考えられる。一方、履修者が限られていることから、履修しやすい時間帯における講義開催となるよう検討して参りたい。 ・本講義では、講義1回分については外部講師として民間事業者をお招きし実施しており、地方自治や公共のみならず民間の視点を取り入れ公共経営を論じている。このため、実践的な公共経営について理解を深めることができ、学生による評価に繋がったものと考えられる。
3129	事業構想学群	コミュニティビジネス	<p>本講義では、コミュニティビジネスの先進事例を学びながら、自ら事業計画を作成する力を身につけることがねらいである。最終課題の説明や毎回の講義後における課題内容等について、検討事項や工夫が必要であると感じた。次年度は、講義内容や事前情報などを含めて、適切かつ早期対応を行うことを心がけていきたい。</p>
3130	事業構想学群	地域分析学	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「講義の課題に取り組む時間を設けていただけたため、各講義の重要な点を把握する事ができた」といった意見を頂きました。本科目は、分析に関する知識や事例紹介だけではなく、講義内において学生自らが地域分析を行う時間を設けることで、より実践的な講義となるよう努めています。そのため、わかりやすかつ分析することの魅力についてこれまで以上に受講生に伝わるような講義内容となるよう心がけたいと思います。 ・本講義では、各業界における最先端の状況について知ることを目的として、一部外部講師をお招きして多様な業種の方々から地域の見方について講義をして頂いております。このような講義方法が、受講生の新たな地域の見方や視野の広がりにつながることを期待し、今後、より一層実践的な学びと理解の深化を目指していきたいと考えています。 ・当授業の授業外の学習時間の面では、全学平均よりも少ない結果となっています。今後の課題として、予習や復習に費やす時間を増やす工夫が必要があると思われれます。
3131	事業構想学群	都市計画	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすくてよかった」、「宮城県のまちづくりについて言及している授業が多く、聞いていて飽きなかった。自分が住んでいる場所も取り上げられ、うれしかった。」といった意見を頂きました。「都市計画」は、私たちの普段の生活に繋がり直結する内容であるため、わかりやすかつその魅力をこれまで以上に伝えられるような講義を心がけたいと思います。 ・講義の初めに、前回の復習（要点をまとめた）確認テストの作業時間を設け、講義内容の振り返りやポイントを再確認することとで、より深い理解と学びと知識の定着を目指しました。この方法については、「毎講義で前回の講義の復習をしていただけたため、より知識が入った」、「前回の復習を講義内でしてくれるところがよかった」との意見が得られました。引き続き、より実践的な学び、要点を整理することで、理解度および定着度が深まるよう努めていきたいと考えています。 ・当授業の授業外の学習時間の面では、全学平均よりも少ない結果となっています。今後の課題として、予習や復習に費やす時間を増やす工夫が必要があると思われれます。
3132	事業構想学群	ローカルベンチャー論	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>本講義では、座学に加えてグループワークを複数回設けるほか、最終的には各グループに対してプレゼンテーション（発表）を課しています。このような教授法を用いることで、学生間における協調性や傾聴力といった合意形成に資する能力を養うことができたと考えております。</p> <p>また、全体平均と比較して「当授業の授業外の学習時間」については少ないといった結果を得ています。そのため、グループ内で共有されたアイデアや私見に対する考察など、今後は事前・事後学習の内容について検討することで、より深い学びとなるよう工夫していきたいと考えています。</p>

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3133	事業構想学群	地域資源論	本講義では、地域資源を知ることから始まり、地域資源活用の事業モデルの企画立案までを講義内容としているが、独自の教材を用いて、より具体的な活用シミュレーションが検討できるよう工夫を行った。この点は、次年度も継続して実施していきたい。なお、講義の進行方法についてはアンケート結果をもとに更なる改善を図る
3135	事業構想学群	マクロ経済学	本講義では、マクロ経済学の基礎理論について理解し、新聞やニュースなどの理解を深めることをねらいとしている。コメントからも資料や板書の見やすさなどについて、さらなる工夫が必要であると感じた。次年度以降は、そのあたりも含めて改善を進めていきたい。
3136	事業構想学群	環境地理学	<p>【よかった点の自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QGISの起動ができない人などにもスピードを合わせていた → GISなどのソフトウェアを扱う講義では、学生によって進度に差が生まれやすいため、今後できるだけ全体を見渡して各人の進み具合を確認しながら授業を進めたいと思います。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QGISなどパソコンでの操作は、手順が一つ遅れるとついていけなくなるので、時間はかかるが二度同じことを繰り返し他方が良いと思う。 → 良いアイデアだと思いますので、次年度参考にさせていただきます。 <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
3137	事業構想学群	公法	・「公務員試験の勉強に役立った」というコメントがあったので、各種試験も意識した内容の講義を心がけたい。
3139	事業構想学群	非営利組織論	本講義は、これまでNPO・NPO法人を非営利組織の対象として展開されてきたが、近年、多様な組織において、社会貢献や地域貢献を目的とする非営利活動が展開されている実態を踏まえて、講義内容の改編を予定している。アンケート結果をもとに、上記内容を鑑みながら、町内会や地域おこし協力隊、ひいては企業の地域・社会貢献活動の事例も取り入れながら内容の改善を図る。
3140	事業構想学群	ボランティア論	ボランティアのあり方について考えを深める上で、地域との関係性や自身がこれまで経験してきた活動についてディスカッションする機会を設計したい。
3141	事業構想学群	景観工学	講義に出席して課題に真摯に取り組む学生が評価されるよう講義運営を進める予定。
3143	事業構想学群	水土環境技術	土壌の計算について学べたというコメントがあり、到達目標を達成していたと思われる。エクセルでの解き方の教え方が早く、聞き逃してしまうことが多かったので、ゆっくりやってほしいかったというコメントについては、補習なども含めて対応していきたい。
3145	事業構想学群	農業農村振興論	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の事前配付、振り返りの共有は今後も継続したい。 ・農業・農村振興という、一部の学生にとってはあまりなじみのない分野ということもあり、到達目標及び授業計画の見直しを検討したい。 ・事前・事後学習時間が少なかったことから、課題等を増やすことを検討したい。
3146	事業構想学群	プロダクトデザイン	グループディスカッションの時間を多くとり、授業を進めたい。デザイナートークに興味を持ってもらったので、そこに力をいれたい。またゲストを呼んで、学生の時に何を考えて設計や課題をやっていたかなどを共有できる時間を作りたい。
3147	事業構想学群	感性情報デザイン演習Ⅱ	<p>自由記述にネガティブなコメントは無かった。ポジティブなコメントを次に抜粋する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 成果物を発表する際...ゆっくり見ることができてよかった。 - 何かあった際にすぐに対応していただけてよかった。 - 毎講義疑問点に対して丁寧に対応していただいた 講義外でも快くご対応いただいた - 難しいが楽しかった <p>これらのコメントは優～秀グループの学生のものと思われる。可～不可グループの学生から意見を聴取し、改善に役立てる必要がある。</p>
3148	事業構想学群	コンピュータアルゴリズム	授業評価に寄せられた意見として、講義の最初に前回の振り返りを学生のレスポンスシートでのコメントを基に行っていることがよかった、教科書が分かりやすかったという旨のフィードバックをいただいています。引き続き丁寧に振り返りを行なっていくとともに、教材などよりポイントの明確化を行うなど改善していきます。授業外の学習時間に関して事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定した練習問題を増やすなどさらなる改善を進めていきます。
3150	事業構想学群	フィジカルコンピューティング	「いまいち理解ができないまま授業が終わり、資料を見返してもなかなか分からない」というコメントがあった。あの資料を見て、なぜ分からないのか、教員としてはそれが分からない。来年度はより詳細にその分かりづらさの原因を究明し改善する必要がある。
3151	事業構想学群	ユーザビリティ	<p>反応値はほぼ全学平均と重なるものとなり、またグループによる実習や、前半で知識中心、後半でそれらを踏まえた実習中心の構成についても肯定的な意見が寄せられたことから、概ね問題なく運営できていると考える。</p> <p>一方、授業内での指示に対して時間が足りないとの意見も寄せられており、課題ボリュームやメ切り設定等の改善を検討したい。また、事前・事後学習については特に意見はなかったものの履修生の認識は全学平均を下回ったことから、事前・事後学習への課題要素の割り振りなどしながら課題ボリュームを考えていくことでこれらのトータルな改善に繋がるとも考えている。</p>

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3152	事業構想学群	感性情報デザイン演習Ⅳ	<p>概ね問題なく運営できていると考えられるが、「技術は身についたが、新しく何かを学ぶというよりも自由にやらせる形なので、新たな学びを生徒に任せてしまっている」との意見が寄せられ、これについては改善を要すると考えられる。</p> <p>「生徒に任せてしまっている」とある部分は、（特に必要な要素技術や知識等については）学生の主体的な学びを促すことが本演習の主旨であり、総仕上げにあたる演習として、これまでの演習や授業で学んできた技術や知識を総合してチームとして主体的に制作等に臨むことをねらっている本演習の位置づけを履修生にもさらに分かりやすく伝えていくことが必要と考える。他方、制作にあたり新たに獲得が必要になる要素技術や知識については演習主旨として自ら学んでいくことが期待されていることを伝えつつ、参考書や参考サイトのリンクを提示するなど主体的な学びをサポート・併走できるような改善を引き続き図っていききたい。</p>
3153	事業構想学群	人工知能とデザイン	<p>授業評価に寄せられた意見として、教室が狭いという要望がありましたので次回に向けて検討します。教材・説明について比較的難易度の高いモデル構築などより解説や事後課題を充実させます。授業外の学習時間に関して事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定した練習問題を増やすなどさらなる改善を進めていきます。</p>
3154	事業構想学群	空間情報コンピューティング	<p>【良かった点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載事項なし <p>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な技術が紹介されるが広く浅くといった感じで、身に付きにくい。提示される参考資料についてはネット上の資料が多く改善すべきである。 <p>【来年度の授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの評価点については、ほとんどの項目で肯定的な評価を得ているが、昨年度までに比べて評価値が低下する傾向がみられている。履修者数が増えて、情報システムに関する理解度の差が影響しているものとする。その一方で、事前事後学習の時間が増加し、それに伴って到達度に関する評価項目で、主体的な学びに繋がっていると評価する。 ・講義では空間情報に関する技術について、自らが調べながらシステム構築を体験し理解することを目指しているが、上述の評価値の低下や自由意見から十分にその趣旨が理解されていないのではと懸念する。授業趣旨の説明をより明確に行うとともに、学生の情報システムやプログラミングの理解度の差に応じて課題に対処できるよう改善を図りたい。
3155	事業構想学群	エンタテインメントデザイン	<p>【良かった点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容が面白く、説明も分かりやすかった。 ・様々なワークを通して考え方を学ぶことが出来て、とても良かったです。 ・グループワークを通して楽しく学べた。貴重な話を聞くことができた。 <p>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</p> <p>【来年度の授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの評価点については、多くの項目で全学平均を上回る肯定的な評価結果であり、授業内容は概ね良好な状況にあると考える。 ・特に知識・技術・知的関心に関する項目については、学生に身近な「ゲーム」の裏側を示すものであり、高い評価結果が得られた。今後も学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるよう、最新技術に関わる情報提供と演習課題の充実を努めていきたい。 ・事前事後の学習時間についてはやや少ない状況であり、今後、適切な学習時間が確保されるよう改善を図りたい。
3156	事業構想学群	音響・映像デザイン	<p>適時性の観点から視聴作品の変更や、視聴機会の増減があることについては、なぜ今その作品なのかをさらに明確に伝えるように改善すると同時に、作品選択全般について不断の改善を図っていく。また、視聴作品から引き出される映像制作あるいは映画学上の知識や理論の比重を増やすと同時に、それらの体系化をさらに心がけ、かつ、それらを履修生に明確に伝えるようにしていきたい。</p>
3157	事業構想学群	情報サービスデザイン	<p>次のコメントがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 資料が少しわかりにくかった。また、クラス図についてが難解で非常に難しかったため、もっとわかりやすく説明してほしい。 <p>昨年度の改善計画に基づき、今年度はやや高度な話題も扱った。しかしその説明が十分ではなかったようである。来年度はその話題を取り下げるか、他の話題を削ってその説明に時間を割くか、受講生の反応を見ながら調整する必要がある。</p>
3160	事業構想学群	建築計画	<p>アンケート反応値が全授業の平均値に対して総じて低調であり、特に難易・進度について顕著だったので、建築計画の基本概念をかみ砕いて説明するとともに、図や事例写真を用いて理解を助ける。また、復習の時間や小テストを導入し、重要事項の定着を図る。</p>
3161	事業構想学群	建築一般構造	<p>学生の理解度や興味関心にばらつきが見られたため、より視覚的・具体的な構造例を取り入れ、図解や事例写真を活用した説明を充実させる。また、演習課題に対するフィードバックを迅速に行い、双方向性を高めることで、理解の定着と主体的な学びを促進する。</p>
3165	事業構想学群	施工技術	<p>授業内容に対する満足度はおおむね高かったが、専門用語や施工手順の理解を確実に定着させるために、写真や動画による現場事例の資料の提示を増やし、視覚的理解を促進する。</p>
3166	事業構想学群	構造力学Ⅱ	<p>非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。</p>

令和6年度後期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
3167	事業構想学群	構造力学演習	アンケート反応値は全授業の平均値に対して総じて高く、自由記述も好意的であったので、基本的な方針を維持する。
3168	事業構想学群	耐震設計法	一級建築士の受験要件を満たす上で、実質的には必修相当の科目であり、多くの皆さんに受講していただきました。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3169	事業構想学群	地区・街区計画	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3171	事業構想学群	コミュニティ・プランナー実践論	<p>・コミュニティ・プランナー（CP）科目は、CP概論及び演習（2年前期）・CP実践論（2年前期）・CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ（3年前後期）で構成され、本講義は中間に位置する。2024年度における講義においても、実践者によるレクチャー、学外でのサイトビジット、グループワークを実施することができ、到達目標を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基礎として講義計画を設計する。</p> <p>・本講義では、連携する自治体等との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。</p>
3172	事業構想学群	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ	コミュニティプランナー科目の最終年度となり、キャップストーンに位置する科目である。前期において計画した地域での活動プランを実施に移す段階であり、準備および振り返りに相当数の時間をかけていたことがアンケートからも確認できた。連携校（兵庫県立大学）との合同発表会もあり、成果物の作成も高いレベルで実施できたことが確認される。なお、今年度は履修者数が例年に比べて少なくなってもあり、丁寧な指導につながったことがアンケートからも確認されるが、履修者数に関わらず丁寧な演習指導となるよう、アンケートを参考にしながら講義改善に努めたい。

令和6年度後期授業改善計画（食産業学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
4101	食産業学群	キャリア開発Ⅲ（食産）	<p>「キャリア開発Ⅲ」は、「実践キャリア開発」への読替え（指定日、計8回）となります。</p> <p>「キャリア開発Ⅱ」では、履歴書の書き方やグループディスカッションなどインターンシップや就職活動の予行演習を行いました。「キャリア開発Ⅲ」では、さらに、履歴書の応用的な書き方や面接練習などを通じて、学生が就職活動に自信を持ち主体的に動けるようなノウハウを伝えました。また、これまでのキャリア・インターンシップ科目で身につけたビジネスマナーや業界・企業研究の成果を活かし、実践の場として、「学内業界研究会」に参加してもらいました。</p> <p>授業外の学習としては、「学内業界研究会」で訪問する企業について事前に企業研究を課しました。これにより企業への興味や理解が深まったと考えられます。また、面接練習の前には質問内容を提示し、面接準備を課しました。面接準備をすることで自己分析が進んだ考えます。これらの課題より、事前準備の重要性を実感できたのではないかと思います。</p> <p>就職活動は、多くの企業と出会い、社会の仕組みを知り、自分の価値観や職業観とも向き合う貴重な機会です。今後は、単に内定獲得を目標とするのではなく、社会に出てからのキャリア形成においても重要となる「自己選択・自己決定」ができるようなシラバス構成を目指していきます。</p> <p>この講義で習得したノウハウや、大学が提供しているキャリア支援ポータルサイトなどのサービスを活用し、学生が納得のいく就職活動が行えるよう、今後もキャリア開発室や事務室と連携を取り、就職活動や進路選択を支援していきます。</p>
4103	食産業学群	食と未来（フード）	<p>以下について改善を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画について、より周知すること ・レポートの提出状況を確認できるようにすること ・レポートの提出数について周知すること
4104	食産業学群	経済経営学基礎	<p>「2人の担当で、重複しているのに内容が異なる部分があったため、統一してほしい。」重複している部分はないと思いますが、検討したいと思います。</p> <p>「不正出席が特に多い講義だと思う。何か改善してほしい。毎回出席しているのに、遅刻している人と結果がほとんど変わらないのが悲しい。」検討します。</p>
4107	食産業学群	科学基礎実験	<p>レポートの課題量を負担に感じているという感想が一部に見受けられた。実験実習では、レポート作成が論理的思考力・記述力・分析力を養う訓練として機能しており、成績評価の重要な要素でもあるため、一定の課題量が求められる。こうした性質上、他の講義科目に比べて時間外での学習が必要となることは避けられない。</p> <p>その一方で、学習効果を維持しつつも学生の過度な負担とならないよう、課題の難易度や分量、提出期限については今後も適宜見直しを行い、改善に努めていきたい。</p>
4108	食産業学群	食材生産・加工実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習人数が多いため、個々人に対する十分なケアを行えていない点は改善の必要がある。 ・レポートの分量、採点基準をさらに明確にする必要がある。
4109	食産業学群	食品マーケティング基礎	<p>講義内での食品マーケティングに関する最新の事例共有については好評だったため引き続き重点的に取り組み、学生の食品マーケティングへの関心を高めていきたい。</p>
4110	食産業学群	応用統計学	<p>学類間の内容の偏りや講義の進め方について、教員間で相談し、調整します。また、より実践的で実社会での利用性が高いような内容するように改善します。解析ソフトウェアの難易度や説明資料について、より分かりやすいものにするように心がけます。</p>
4111	食産業学群	地域食産業論	<ul style="list-style-type: none"> ・各回ごとに異なる講師のため、学生にとっては食産業の幅の広さを学ぶ最適な内容です。 ・一方で、分野や経歴が異なる各講師の間の連携には現実的な困難性があるため、15回全体を通してみた場合に、深められる部分と自分で意識して深めなければならない点があることを履修時から踏まえた上で履修登録することが求められます。言い方を変えれば、各回は個別講義として十分に充実しますが、その内容を体系的に積上げて実際の経営に活かすには仕組上、大変困難です。したがって、話を聞いているだけでなく、各回の講義内容が関連する他科目のシラバスの中のどこに最も関係するか、また重要な点でありながら各講師が意識的に言及を避けている部分はどこかなどを常に意識して参加することが個々人に求められます。 ・次年度も可能な限り、食産業の最前線で経営に携わっている方をお呼びしたいと思います。

令和6年度後期授業改善計画（食産業学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
4112	食産業学群	経済数学	<p>例題を授業で解説し、自分でも解けるようにする授業形態に対する評価は高かった。試験に出る問題を事前に公表することで、勉強した学生ほど良い成績となるように工夫した。実際に、講義を理解し、自分でも演習を繰り返した学生が良い成績となった。応用統計学などの履修も推奨し、数学、統計、経済学等の関連分野の総合的な理解に向けて科目を運営していく予定である。以下自由記入欄からのコメントです。</p> <p>この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義のレベルが適切でした、・試験内容を教科書をベースにされていたこと。・説明が簡潔でわかりやすかったこと。また似たような解き方をする問題をいくつか繰り返して講義内で解かせてもらえたため、問題の解き方が身につきやすかったこと。・先生の話が面白かった。・内容がわかりやすく、幅広いこと。・試験前に出そうな問題を教えてくれるとこ・授業が面白く、興味を持って学習に取り組むことができた。・とにかく問題を復習すれば、テストで高得点を取ることが出来た点 <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし・複数人で学びあう機会を設ける・大講義室の後ろだとホワイトボードの文字が少し見にくかった。 ・Rについてももう少し深く学びたかった <p>その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川島先生はどの講義でもですが説明がわかりやすく、90分を有効に使えていると感じられるとても好きな先生で、経済数学を川島先生から学ぶことができよかったです。・内容は難しいのに頭にすっと入る授業でした。
4113	食産業学群	キャリア開発	<p>”キャリア”を考える際に、”自己選択・自己決定”は大切です。そのためには、自己理解、環境理解が必要となります。</p> <p>この「キャリア開発」では、環境理解の一環として、労働市場や職業理解に焦点をあてたシラバス構成としています。</p> <p>第一線で活躍されている人事担当者や地元企業、官公庁の方々による講話を通じて、企業の魅力や労働環境改善への取り組みなど”働くこと”や”仕事”に対する職業観を深めることができたと考えます。また、企業研究発表会、企業研究レポート提出を課すことで、学生一人ひとりが企業研究を行い、業界や企業の見方を理解するとともに、視野を広げる機会となりました。これらの活動は、今後の就職活動への準備にもつながると考えています。さらに、キャリア形成を考える上で重要なライフプランニングについても授業内で触れました。今後も、卒業後のキャリア形成や就職活動に役立つ知識を身につけられるよう、シラバス構成を工夫していきます。</p> <p>また、多くのゲストスピーカーのご協力を頂いています。キャリア形成で大切なポイントについて、複数の講話で繰り返し触れられることもあります。それは学生の皆さんにとって理解を深める良い機会となります。今後は、より有益な情報を提供できるよう、ゲストスピーカーとの事前打合せを丁寧に行ってまいります。なお、学内イベント参加への加点については、今後の課題として検討していきます。</p>
4114	食産業学群	実践キャリア開発	<p>「実践キャリア開発」では、学生が就職活動に自信を持ち主体的に行動できるよう、履歴書の書き方、グループディスカッション、面接練習など実践的なノウハウを伝えました。特に、企業が求める実践的な能力を理解するために、グループディスカッション演習や面接練習では、外部講師として企業の人事担当者、ハローワーク、そして就職情報企業の専門家の方々にご協力を頂きました。これにより、学生は的確なフィードバックを得ることができ、実践的なスキルを磨く貴重な機会となりました。さらに、これまでのキャリア・インターンシップ科目で培ったビジネスマナーや業界・企業研究の成果を活かし、実践の場として、”学内業界研究会”に参加してもらいました。</p> <p>授業外の学習としては、”学内業界研究会”で訪問する企業について事前に企業研究を課しました。これにより企業への興味や理解が深まったと考えられます。また、面接練習の前には質問内容を提示し、事前の面接準備を促しました。これらの面接準備をすることで自己分析をさらに深めることができたと考えます。これらの課題を通じて、事前準備の重要性を実感できたのではないかと思います。</p> <p>就職活動は、多くの企業と出会い、社会の仕組みを知り、自分の価値観や職業観とも向き合う貴重な機会です。今後は、単に内定獲得を目標とするのではなく、社会に出てからのキャリア形成においても重要となる「自己選択・自己決定」ができるようなシラバス構成を目指していきます。なお、学生間の就職状況共有や適性検査については検討致します。</p> <p>この講義で習得したノウハウや、大学が提供しているキャリア支援ポータルサイトなどのサービスを活用し、学生が納得のいく就職活動が行えるよう、今後もキャリア開発室や事務室と連携を取り、就職活動や進路選択を支援していきます。</p>
4116	食産業学群	植物保護学	<p>教材の改善としては、教科書と重複する植物病理学分野は配付資料の要点をさらに絞り、教科書で不足する部分を中心とする。一方で教科書を指定していない昆虫分野はよりいっそう配付資料を充実させる。講義内容は必要な部分は残しつつ重点化を図り、十分な時間をとって学生が理解しやすい解説に努める。また防除分野は現在研究中のものをできるだけ多く盛り込み、新技術への理解を深める。</p>
4117	食産業学群	施設園芸学	<p>テストが難しかったという感想が一部に見られたが、90点以上を取った学生が約10%いたことから、内容が過度に難しかったとは言いがたく、習熟度の差が反映された結果と考えられる。習熟度の差の要因としては、高校で生物を履修していないなどの基礎学力の違いや、講義期間中の学習状況の差が挙げられる。今後は、理解が不十分な学生に対し、時間外学習用の課題を設定し、段階的に習熟を促す仕組みを導入することで対応を図りたい。</p>

令和6年度後期授業改善計画（食産業学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
4118	食産業学群	植物生産実験実習Ⅱ	<p>作物分野：水稻実験では宮城県主要品種の理解向上を図っており、次年度も継続する。特に、収量構成要素の分析・理解を通じて生産における特性把握を経験することを強化する。形態観察では組織固定から観察までの手法工程全体を体験できるようにする。</p> <p>園芸分野：培養液に含まれる肥料成分の計算を行う場面では、苦手意識を持つ学生が多く見受けられた。しかし、グループ内で積極的にディスカッションを行い、互いに教え合う姿も見られた。各班が正解にたどり着き、計算方法についても自主的に理解を深めていたことから、実習の目的は概ね達成されたと考えられる。</p> <p>土壌分野：窒素分析のケルダール分解が時間の関係で試料を計り入れて、硫酸を入れるまでであった。詳しい理解のために、加熱を始めて炭化するまでを見せるか、別途演示することにして理解を深める。</p> <p>病害虫分野：実習の対象としている昆虫病原菌だけでなく植物病原菌も用意し、同期開講の「植物保護学」で得る病害虫防除に関する知識を補完して理解を深める。</p>
4119	食産業学群	暮らしと作物	<p>様々な作物の実物を見せる点では評価が高く、次年度以降も教材の充実を図りたい。かなり多くの作物を扱っており、期末試験1回では負担が大きかったようで、次年度、中間試験を実施し、より集中して勉強に取り組めるよう工夫したい。</p>
4120	食産業学群	肉の生産科学	<p>各担当教員による講義内容において、重複や難易度のばらつきが見られたようなので、今後は打ち合わせを通じて内容の整合性を図るようにしたい。一方で、履修者のうち20%が不可となっており、講義前後の十分な自学自習を行ったうえで、講義および試験に臨んでもらいたい。</p>
4125	食産業学群	水棲植物学	<p>少数ではありますが熱心に講義に臨んでい学生が散見され、基本的にはそのような学生への発信を念頭に置いて講義を行いました。しかし、寝ている学生を起こしたりや内職（他講義のレポート作成、スマホによる動画視聴やチャットなどのやり取り）をできなくするような厳しい接し方が必要かどうか悩んでいるところです。他の講義ではこんな感じでも単位がもらえている可能性があり、もしそうだとしたら学生が単位取得を簡単に考えるようになってしまい、真剣に勉強する雰囲気が無くなってきていると感じます。そんな全体的な雰囲気飲み込まれて努力することをあきらめているようなので、もしかしたら目先のことすら考えられないレベルなのかもしれません。私としては選択科目なので興味がないなら受講をやめればよいと思っていますのですが、単位は欲しいようです。というか出席していれば無条件にもらえると思ってしまうています。現実的にはパワハラを訴えを気にすると厳しくはできないのが現状で、このようなレベルの学生への教育は難しいと常々思っています。ということで、現時点では改善計画はなく、長い目で見て宮城大学の学生を理解したいと思っています。</p>
4126	食産業学群	水産生物学実験実習	<p>特に改善点は思いつきません。今後も、実験室での実習と企業の施設見学を行って、学生にとって刺激のある実習になるよう心がけていきたいです。</p>
4127	食産業学群	アグロテクノロジー	<p>プレゼンに対する好意的なコメントが得られた。各教員からの知識を吸収した結果、多彩なアイデアを持ち寄り充実感を得られたものと考えており、計画に沿った結果となっていると感じている。課題に要する時間を多く持たせることで、現状よりも深い学びを学生に求める余地があると考えられる。従来路線は維持しつつ、次年度の課題設定について再考していく。</p>
4128	食産業学群	アグリビジネス論	<p>特になし。</p>
4129	食産業学群	食材生産経営学	<p>「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思っています。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。</p> <p>レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。</p>
4130	食産業学群	現代食農ビジネス論	<p>国内外の食農ビジネスについて解説し、多くの学生が毎回のテーマに関して興味関心を持ってレポート作成に取り組んだ。文章を書くことが事後学修で習慣化されたことで、自分の考えを文章化する能力は大きく向上したと思います。今後とも、食農ビジネスに関するレポート作成と教員からのフィードバックを通じて、現在の多種多様な食農ビジネスの価値創造や参入実態について説明できる能力を向上させるよう努めていきたい。</p>
4131	食産業学群	農業経営経済学演習	<p>データ分析やディスカッションを少人数で行います。データ分析を実践してみたい人、農業や食に関わる様々な社会問題について議論したりしたい人、ぜひ履修してみてください。講義で学んだことを演習形式で実践することで、より深い学びにつながると思います。学生の主体性や自主性を後押ししていきたいと考えています。</p>
4132	食産業学群	分子生物学	<p>学生の理解を進めるため、次年度より、教科書を指定することとし、教科書に沿って講義を行う。小テスト等により理解度を確認していく。</p>
4133	食産業学群	環境微生物工学	<p>参考資料をもう少し挙げることや、予習復習を促すような要点を示すことを意識し、事前・事後学修が一定時間に達するように工夫する。</p>

令和6年度後期授業改善計画（食産業学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
4134	食産業学群	食品企業経営論	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、この授業で使用するPPTを配布して欲しいというリクエストがありますが、指定テキストがある以上、PPTの配布は予定していません。 ・実際に授業で話す内容の重要点は、ほぼ全てテキストに記されています。テキストは各回8-10頁とそれほど分量は多くないので、キーワードを中心に十分な予習をして頂ければ重要な点はわかります。 ・アンケートの履修者平均は他科目の半分程度の時間しか予習をしていないようです。予習ではただテキストを読むだけでなく、個別のキーワードをしっかりと調べてから授業に望んで頂ければ授業中は話を聞くことに集中できます。予習をしていないと、話を聞かず全てのスライドや講義内容をひたすら書き写すようなことになりかねません。スライドの中にはテキストの図表もかなりありますので、そこはメリハリをつけて授業を受けてください。 ・コメントには「教科書と授業の内容の乖離」という指摘がありますが、授業で伝えている基本的事項は同じです。変化しているとすれば、その基本的事項を踏まえて紹介した現実の経営事例の部分のみははずです。事例だけを追うのではなく本質的な部分をしっかりと捉えるようにしてください。 ・事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがありますので、次年度開講する場合にはその点を踏まえて対応したいと思います。
4136	食産業学群	食品流通論	<p>講義内容は前年度の授業評価を踏まえて内容の修正を行ったが、他の講義と重複する部分をもう少し削る必要があると考える。</p> <p>資料については、ポイントとなる内容に書き込む形式にしているが、関係性や関連性を踏まえて理解できていないと感じたため、ポイントとなる内容については、もう少し丁寧に説明していくよう努めたい。</p> <p>また、詳しい説明が必要な所は文章化し、ポイントとなることは箇条書きにしていたが、学生とこちらの認識が違うようなので、今後、表現方法について考えていきたい。</p> <p>なお、改善した方がいい点や意見などいくつか上がっていますが、講義中などでも指摘がなかったため、もう少し学生から声をあげてほしいと感じました。</p>
4137	食産業学群	食品マーケティング演習	<p>演習のため、講義は学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートしながら取り組むことから、対面での実施は非常に効果的であった。企業との産学連携を行いながら実践的な食品マーケティングを学べる本講義については学生から好評であった。今後も実践的な食品マーケティングの学びを学生が習得できるよう講義内容を工夫していきたい。</p>
4138	食産業学群	食品企業経営戦略演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前週に配布する教材を各自が予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になります。 <p>毎回ケースが異なりますが、常に前回のケースでの理解を踏まえて一段上の分析が求められ、結局、各回の積み重ねが要求される演習です。</p> <p>クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められます。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊を終了することが多いので、このレベルを維持していく予定です。各自、使いやすい電卓を用意して自ら手を動かすことが求められます。</p>
4140	食産業学群	フードコミュニケーション	<p>事前学習のきっかけとして、講義前に事前学習課題を設定するなど、授業の改善を行う。</p>
4143	食産業学群	食品情報科学論	<p>講義だけでなく、グループワークや外部講師から話を聞く機会は、学生にとって新たな情報を得るいい機会となったように考えている。しかし、新カリキュラムの科目であったため、今後、内容を精査していく必要があると考える。また、トレンドがあり、時代の流れとともに変化していく分野であるため、最新の情報を講義に取り入れていけるよう努めていきたい。</p>
4144	食産業学群	食品貯蔵・流通技術論	<p>事前事後学習は2時間弱で講義型の科目としては少なくない数値と考える。来年度以降は事前学習に取り組めるような課題を提示しながら進めたい。</p>
4145	食産業学群	食品工学	<p>近年、物理を履修する学生が少なくなっており、抵抗感が高まっていることから、図や用語をわかりやすく説明し、また、社会での活用事例について触れることで実学を意識した講義とする。</p>
4147	食産業学群	畜産食品学	<p>アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。</p> <p>感想などをフィードバックし、できるだけ双方向な授業を実施する。</p>
4148	食産業学群	調理科学	<p>全体として特に大きな問題はないと思われるため、昨年度と同様に言いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。</p> <p>小テスト・質問などはteams等を使って共有し、適切な双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。</p>
4149	食産業学群	食品衛生学実験	<p>当該科目の内容は実際の食品工場における品質管理現場で行われている内容を、理論と実践を伴った型で体験するものとなっている。本年度は、積極的な学生参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。この内容を十分に理解した上で、実験の臨むことにより、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の受講者で事後のレポート作成の際に、十分に実験内容や実験結果を把握しないまま、レポート提出したようであった。一方で、これまでの学習の中で、レポートの書き方についての訓練ができていない者が散見され、当該科目においても、はじめの段階でレポートの書き方についてしっかり伝えるよう工夫したい。</p>

令和6年度後期授業改善計画（食産業学群）

通番	開講学群	科目名	授業改善計画
4150	食産業学群	発酵食品・醸造学	概ね理解度は進んでいた。しかし、予習が不十分であったので、レポートの書き方などが不十分なものがあつた 予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。
4151	食産業学群	品質保証システム演習	当該の演習科目は講義、グループワークによるディスカッション、プレゼンテーションを繰り返しながら学習を展開する内容となっている。このため、ある程度のまとまった時間を連続的に確保することが必要であり、開講時期を夏休みとして対面の集中講義形式で実施している。受講学生の参加意欲や取り組む姿勢なども良好で、演習に関する前後の学習時間の確保し易いようであつた。 演習の改善点としては、当該科目の特徴であるグループワークの運用について工夫をしたい。グループワークを実施する際、作業を効率的に進めるため、グループによっては分業制で作業を進めることがある。作業を早く進めるためにはそのほうが良いのではあるが、科目の目的は、全体の把握があるので、過度に分業するのではなく、参加者が等しく全体を把握・掌握できるよう運営を工夫する。
4154	食産業学群	食品化学実験	予習が不十分であったので、試薬調製やレポートの書き方などができていない。 予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。 来年度以降は、より実践の研究に近い高度な実験を行うように改善する。